

弘南鉄道大鰐線存続戦略協議会

(青森県)

弘前市と大鰐町の2市町が先頭に立ち、多様な主体と連携・協働した数々の利用促進施策を実施。また、対象を明確化した戦略的なモビリティマネジメントを行うことにより、減少が続いていた弘南鉄道大鰐線の利用者増を実現した。

(取組みの概要)

1. 2市町が連携し、多様な主体との連携・協働により、各種施策を実施

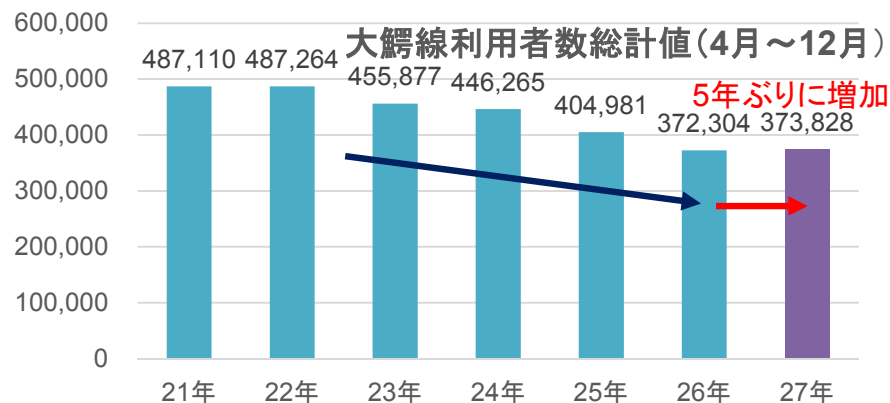
- 弘前市長と大鰐町長が、大鰐線存続に向けた連携を宣言。事業者はもとより、商店街、学生、住民、NPO等多様な主体が参画し、コンソーシアムを設立。各種企画切符の企画やイベント列車等を実施(弘前バル街とのコラボ乗車券、ヨガ列車、大鰐線遠足等)。
- 中学生応援切符、通院あんしんパス、乗継割引等の他分野・交通モード連携施策を実施。
- 新聞・テレビ等を利用した啓発、オリジナルロゴ作成によるモチベーションの醸成。

2. 利用目的別の戦略的モビリティマネジメントを実施

- 中学生:動機付け冊子、中学別の通学カタログ、ランドリーバッグ等を教員から配布。
- 高校生:動機付け冊子、交通マップ、ブックカバー等を校長会で説明。教員から配布。
- 沿線住民:ワンショットTFP実施による行動・実行意図の形成(約10%が行動を転換。定期外利用者増)
- 小学校統廃合を機に定期券補助制度を創設し、マイカー需要への転換を抑制(定期券増売)

3. 地域づくりとの一体化による持続性の確保

- 地域イベントとの連携により、売り上げ寄付の仕組みを構築。
- MMの継続的な実施。
- 地域の重要な幹線として地域公共交通網形成計画等へ位置付け、駅前の再開発も予定。



企画切符(中学生向け・通院向け)



中高生MM



トラベルフードバックプログラム



ニュースレター